

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

センター通信

第 13 号
2019. 3. 30

「乱歩邸来訪記」

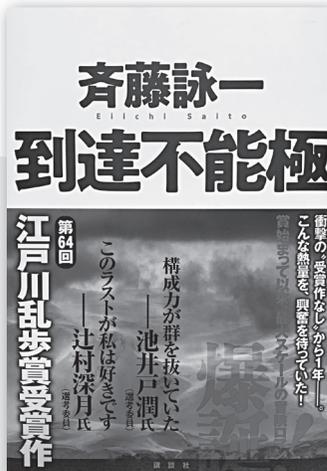
乱歩邸には一般のお客様以外にも、取材で多くの方々を足運ばれます。その内、今回は『到達不能極』で第六十四回江戸川乱歩賞を受賞された齊藤詠一氏の御感想を掲載致します。二〇一八年九月二十八日に来訪された齊藤氏には、邸内を一通り御覧いただきました。

小学生の頃、図書室で江戸川乱歩全集を読みました。並ぶ書棚の奥へ分け入っていくきっかけの一つが、あのおどろおどろしくも、少年の好奇心を掴んで離さなかった物語たちであったことは確かです。

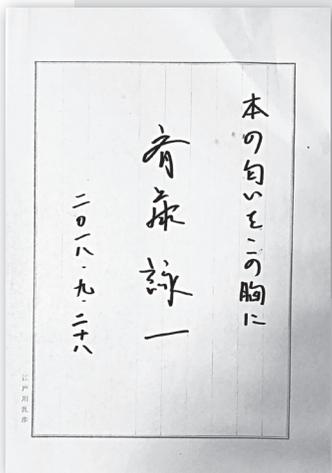
それから三十数年を経て、私はその名を冠した賞をいただくことができました。乱歩邸の土蔵に足を踏み入れてすぐに胸を満たしたのは、遠い日、薄暗い本の森に漂っていたのと同じ空気でした。

かつて大乱歩も嗅いだであろう本の放つ匂いに、「その彼方に広がる世界へ、もっと多くの人を誘え」と命じられたような気がしています。

齊藤 詠一



『到達不能極』書影



齊藤詠一氏サイン

目次

- 乱歩邸来訪記
- 資料紹介
 - 乱歩旧蔵「雄鼎会談」について
 - アンケート
 - 大衆文化と乱歩に関する本
- 資料紹介
 - 乱歩と帽子「調和」へのこだわり
 - 資料紹介
 - 旧乱歩邸蔵「探偵クラブ」全一〇号
 - (新潮社、一九三二・四〜一九三三・五) 合本、切り抜きあり
- 展示紹介
- 編集後記

齊藤 詠一

近衛 典子

入山 洗希

米山 大樹